

エコスクール認定校における施設・設備を利用した環境教育の現状と課題

0012505 奥村浩明
指導教員 市川智史教授

1. はじめに

エコスクール事業は、1997年度から開始された事業である。同事業は、環境負荷を低減することと同時に施設・設備を利用した環境教育を推進し、これらの相乗効果によって持続可能な社会の実現に資することを旨とするものである。しかしながら、エコスクール認定校における、施設・設備を利用した環境教育の現状は明らかにされておらず、問題点や課題も考察されていない。そこで本研究では、近年の認定校を対象として、施設・設備を利用した環境教育の現状と課題を明らかにする。

2. 方法

現行学習指導要領（2008年改訂）が全面実施された2011年度以降の小学校、および2012年度以降の中学校のエコスクール認定校335校を対象に郵送形式の質問紙調査を行った。調査項目として、認定年度、事業タイプ、設置施設、教職員の認知、教職員への説明・研修、児童・生徒への周知活動、児童会・生徒会組織、地域・PTAとの連携組織、児童・生徒の変化、学習活動の有無、学習活動の内容、学習活動に取り組む際の問題点、学習活動に取り組んだことがない理由、学習活動の推進についての考え、の14項目を設定した。

3. 結果・考察

小学校61校、中学校31校の計92校から回答を得た。約3割の学校では、教職員全員が認定を受けたことを知らなかった。約6割の学校が教職員への説明・研修を行っておらず、約7割の学校が児童・生徒への周知活動を行っていなかった。認定を受けたことや、施設・設備についての説明・研修、周知活動が不十分であることが明らかとなった。

施設・設備を利用した学習活動は、約6割の学校が行っておらず、取り組んだことがない理由として、約2割が「施設・設備を利用しようとしていない」「施設の存在を知らない」等を挙げた。エコスクール事業の理解不足が課題である。認定の際に説明の機会を設けるなどの方策が必要と言える。

比較的良好に利用されている施設・設備は、児童・生徒が直接触れたり、見たりできるものであったが、必ずしも利用度が高いとは言えない。最もよく利用されているのは「風を取り込みやすい窓や戸」（風）であった（図1）。利用の促進を図るための取り組みが課題である。文科省ウェブサイトには実践事例や活用集が掲載されているが、十分には普及していないと考えられる。事例や活用方法の提案・普及が必要と言える。

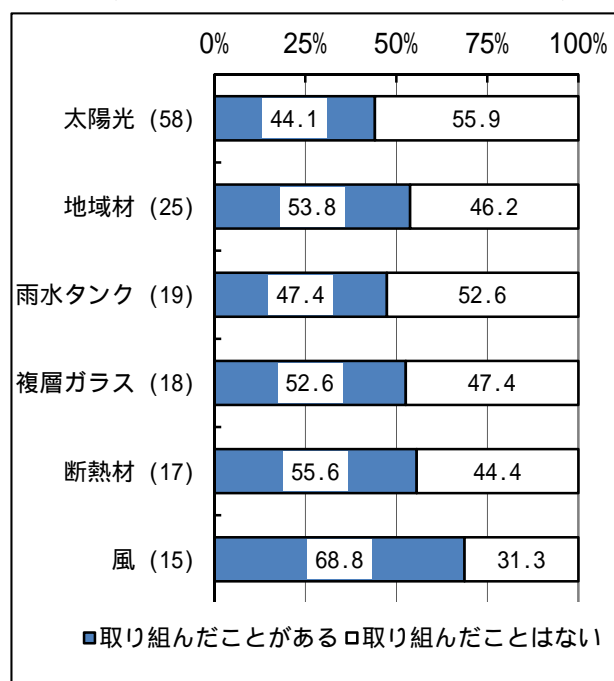


図1 施設・設備と学習活動（一部抜粋）